

令和8年度 第1回 総合教育会議（導入編）

小・中学校体育館等への 空調設備導入について

— 現状共有：市の方針・財政と、これから一緒に考えたいこと —

令和8年8月6日（木）

福津市長

福井 崇郎

本日は結論を出す場ではなく、現状を共有し「共通のスタートライン」に立つための導入編です。

基本姿勢

「必要性は、痛いほど理解している。
どうすれば実現できるかを一緒に。」

必要性は共有

酷暑は『災害級』。子どもの学習環境の問題として重く受け止めている。

財政は共通認識

臨時行財政運営方針の極めて厳しい局面。ここは教育委員会とも共有済み。

ゼロベースにしない

「やるか否か」ではなく「どう無理なく実現するか」を熟議したい。

I 市の現状認識

今年度の方針・主要政策と、財政の実像

市全体が置かれている状況を共有します。

令和8年度は「選択と集中」－3本の柱に資源を集中

市制施行20周年を越え、市は大きな転換点に。緊急性・重要性の高い施策に経営資源を集中します。

1

災害に強く、安心して暮らせるまちづくり

昨夏の大雨災害からの復旧を最優先。防災のまちづくり。

2

次世代を育む教育環境の整備

児童生徒の急増に対応。学校の新設・増改築・環境改善。

3

人も企業も行政も「稼ぐ」まちづくり

財政の弾力性確保。財源確保策と受益者負担の適正化。

体育館空調の位置：「教育環境（柱②）」であり「防災＝避難所（柱①）」でもある。

令和7年8月の大雨災害－復旧が最優先

約20億円

災害復旧事業費（概算規模）

580箇所超

被害を受けた公共インフラ

最優先

令和8年度予算の編成方針

復旧が、市の資金と職員の力を先に必要とする

- 道路橋梁・河川・農業用施設・文化財・市営住宅などの復旧を、令和8年度も引き続き最優先で進める。防災対策の必要は今後も高まる一方で活用できる財源には限りがある（自助・共助・公助の組み合わせ）。

臨時行財政運営方針（R8～9）－聖域なき見直し

財政の硬直化が大きく進行。将来にわたり強固な財政基盤を確立するため、令和7年12月に策定。
「選択と集中」で市政を運営します。

● 聖域なき事業見直し

事務事業を総点検し、物件費・補助費を含め全事業を見直し対象に。

● 受益者負担の適正化

使用料の見直し等。特定の人を使う施設は使う人と使わない人の均衡を図る。

● 公共施設の総量圧縮

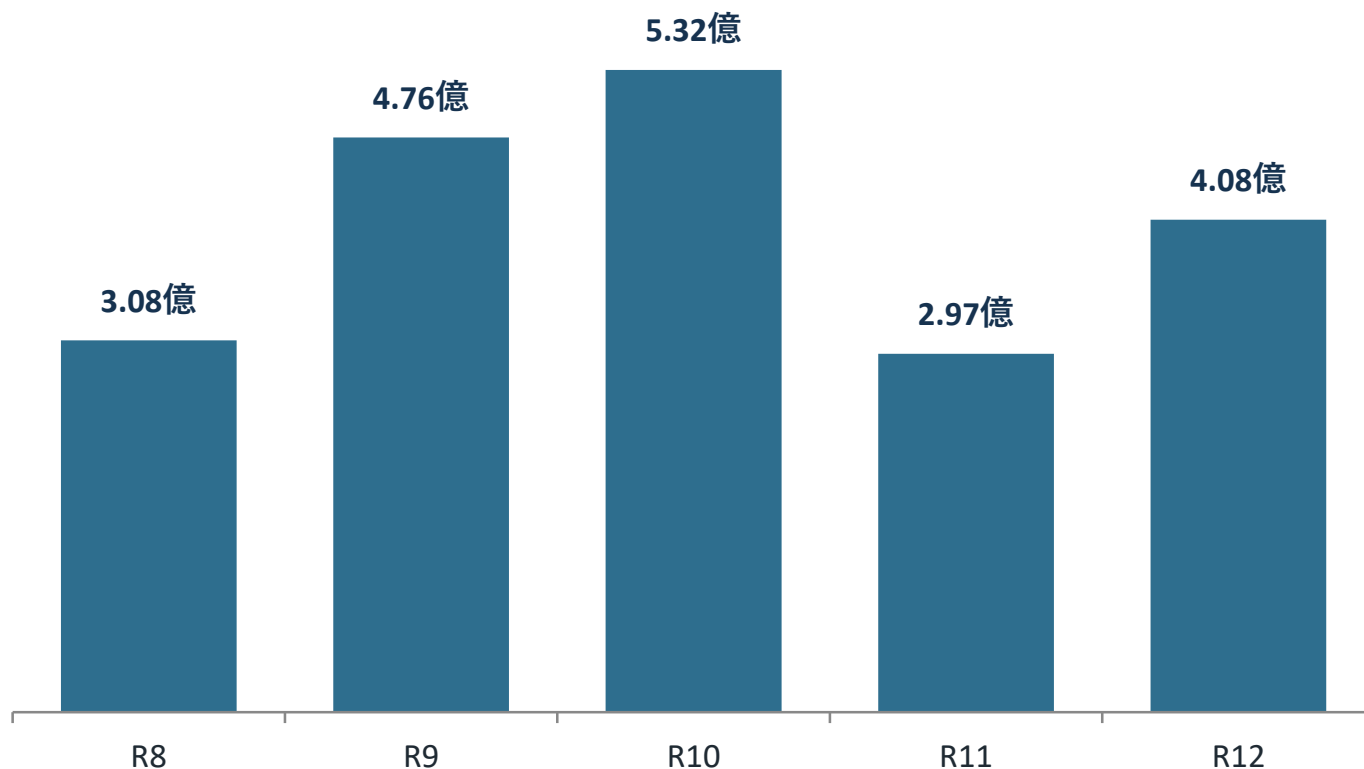
教育施設も含めて再配置・機能統合・廃止を加速。新規の箱ものは慎重に。

● 投資は過大規模校緩和が主

普通建設事業は過大規模校の緩和を主として実施し、選択と集中を徹底。

政策に自由に使えるお金は、年3～5億円規模

一般会計における「政策的な経費に活用可能な財源」の見込み（単位：億円）



この薄い帯に、
継続している既存需要と新規需要が乗る

- 歳入と歳出の差＝活用できる財源は、5年間どの年も数億円規模。
学校・保育・防災・老朽化対策など、あらゆる継続している既存事業と新規需要に対応していかなければならない
体育館空調（全校で数億円規模）を一斉に設置することは困難

基金に関する課題

約72億円

基金総額 約110億円のうち、超長期債券が
約72億円（約65%）

だから、災害等への備えを最優先で確保

1

財政調整基金の目標

標準財政規模の10%＝15億円以上を、災害等の非常時
バッファとして確保したい。

2

公共施設等の更新

広域行政も含む既存の公共施設の更新が今後予定さ
れ、更新費用の負担が市政運営に大きく影響。

3

扶助費・繰出金の増

団塊世代の高齢化と子育て層の転入で、公的支援が
必要な世代の割合が増加。

学校投資と学校施設の長寿命化

児童生徒の急増に対応するため、体育館空調の「前」に、待ったなしの学校投資が並んでいます。

宮司小学校（仮称）の新設

令和9年4月開校に向けて整備を継続。

中学校35人学級への対応

令和8年度からの導入に向けた教室数の確保。

福間南小学校の環境改善

過大規模校の特別教室整備・トイレ改修。

津屋崎中学校の増改築

今後の生徒数増に対応した増改築。

小中学校施設の長寿命化

施設全体を対象とした長寿命化計画の策定。

体育館空調

Ⅱ 体育館空調をどう捉えるか

必要性は認める。 実現可能な設置へ

そのうえで、進めるには3つの論点を一体で設計する必要があります。

酷暑は『災害級』－でも「全校一斉にすぐ」は困難

33.1%

全国の学校体育館の空調設置率
(令和8年5月時点)

= 全国でも約7割が未整備。

空調は「二つの顔」をもつ



教育の顔

酷暑は災害級。体育・式典・部活動など学習環境に直結。熱中症リスクは待ったなし。



防災の顔

指定避難所の中核。夏の災害時、空調のない避難所は要配慮者に致命的。

市長として： 必要性は認める。ただし全校一斉に整備するのは難しい。現実的な順次整備を検討しつつ、教育委員会とも工夫できることを共に考え、協力いただきたい。

結び

必要性は共有。財政も共通認識。
だからこそ、「続けられる現実的な計画」を一緒に。

- 財政の厳しさと、現場の切実さ。今日はその双方をテーブルに出せました。
「誰一人取り残さない学び」を、成長する福津で持続可能な形で守る。